

図書館報

聖隷クリストファー大学

第16号 2018.4

📖 図書館と向き合ってきた生活史の側面（大友信勝）……	1	📖 この一冊 ……………	5
📖 言葉の音（響き）とリズムを楽しむ（矢倉千昭）……………	3	📖 文献を探してみよう！！……………	9
📖 他者の世界を知ること（酒井昌子）……………	4	📖 「マイライブラリ」使っていますか？ ……………	12



図書館と向き合ってきた生活史の側面

社会福祉学研究科長・教授 大友 信勝

社会福祉の実践・研究を志し、半世紀にわたり社会福祉の道を歩んできた。図書館（室）や出版物との付き合いは仕事でもあり、生活の一部そのものである。

戦中、東北の日本海側、鳥海山麓の農家に生まれ育った。強制供出のため飯米に不足し、山や川で山菜や小魚を採取し、空腹であったが四季折々の伝統行事や祭り等、自然と文化が豊かだった。村に時々飴売りが来て「紙芝居」をやった。『黄金バット』にわくわくし、次を夢見た。情報らしきもの、それは『家の光』と一般新聞、そしてラジオ、早く漢字が読めるようになりたかった。

小学校に入ると「生活綴方」を学んだ。生活を見

つめ、なぜなのか。どうしたらいいか。自分で調べ、考え、記録するようにという教育を受けた。そうは言われても、両親、祖父母は夜明けとともに日没まで働き、子どもといえば、子守や児童労働は当たり前のこと、それを書いても面白くない。何を書くのかわからない。そこで図書室に行き、何をどう書くのか、ヒントを掴もうと考えた。

村には本屋がなく、図書館もない。学校の図書室が文化の拠点そのものであり、知的世界の入り口だった。図書室は司書がいるわけではなく開架式で自由に手に取り、ノートに書いて借りるシンプルなやり方だった。宿題の作文に直ぐに役立つ本は探してもない。しかし、そこには『トムソーヤの冒険』を

はじめとするわくわく、どきどきの世界があった。
ミシシッピー川へのイメージ、同じ少年が繰り広げる破天荒な出来事、その一つ一つに心が躍り、次には『十五少年漂流記』を手に取り、無人島でのサバイバルと冒険、そこに広い世界を夢見る自分がいた。

中学校は新聞部に入り、校内新聞の作成に当たった。「生活綴方」は継続され、定期的に漢字書取りの試験があった。村では、高校進学率が30%程度の集団就職の時代であり、自立した人生の基礎学力をつけさせるための動機付けを重視した。図書室利用の常連となり、伝記を中心に読みまくった。たとえば、アフリカの医療支援でノーベル平和賞をうけた、アルベルト・シュヴァイツァー。日本では、同志社大学を創設した新島襄、等を次々と読んだ。伝記は時代の制約下でどう生きるかを考えさせてくれた。時代を切り拓く志、明確な目標、そこに向けた周回の準備や訓練、学習、それらが整わないと難しいし、理解者、支援者がいないとできない。

高校は地元になく、地方の小都市にある旧制中学の進学校に入った。初めて、旧帝大をめざす「がり勉」達がクラスメートになった。私は、その中でテストは一夜漬け、報道部で新聞をつくり、文芸部の例会で読書会に参加する日常を送った。高校のある市内には本屋、市立図書館があり、高校の図書室も蔵書の範囲や利用の仕方に大きな違いがあった。朝、5時起きをして列車に乗ると終点が文化の違うまちだった。中学の後半から図書室の文学書にのめりこんでおり、高校で加速した。通学の列車内で文庫本を読むという習慣が身についた。厚い本は図書室で借り、自宅で読み、文庫本との棲み分けをし、読みまくった。夏休みに作文の宿題があり、指定枚数を大きく超える長文を書いた。このときに書くことの楽しさを身に付けた。

大学は社会福祉系を選択し、名古屋に住んだ。名古屋は県立・市立図書館をはじめ、総合書店、専門書店、中には古書店もあった。大学の図書館は小さかったが国内外の社会福祉専門書、新刊書があり、司書があらゆる質問に答え対応してくれた。社会福

祉学は戦後の新しい学問分野であり、古典や専門書を他で求めるのが難しく、大学図書館の位置と役割の重要性を実感した。

大学時代に、記憶に残るもうひとつの図書館利用がある。それは、試験準備や論文作成の場として活用した点である。卒後、公務員を目指し試験勉強を開館から閉館近くまで利用した。気分転換で県立・市立・大学図書館と変えてみた。卒業論文作成は、調査やインタビューの検証を大学図書館で資料確認でき、集中できるので役立った。検索したい参考文献や資料も確認しやすく、図書館の活用がいかなるものかを体験できた。卒業論文は67,000字の長文にまとめ、知的生産の基礎になった。卒後、公務員となり、福祉事務所の実践を4万字にまとめ、学会の学術賞を受け、これが自信になった。これらが、やがて博士論文「公的扶助の展開」につながってくる。図書館とどう付き合うのか。図書館は検索をはじめ多機能になり、先行研究、情報の拠点である。常に時代を切り拓く機能、役割を持ち知的生産のフィールドとして日進月歩している。人生の可能性を開く扉をあげ、夢と希望を育てるのも面白い。





言葉の音（響き）とリズムを楽しむ

リハビリテーション学部理学療法学科 教授 矢倉 千昭

浜松に引っ越して来て8年目になろうとしています。故郷の五島（長崎県五島列島）を離れ、教員となって20年目です。浜松には遠州弁があるように、五島には五島弁があります。五島弁は撥音（はつおん）と促音（そくおん）を特徴とし、簡単に説明すると「ん（ン）」と「っ（ッ）」を使い、あなたは「うんが」、私は「おっが」となります。平坦気味なアクセント、さらに簡素化して同じ言葉で意味の使い分けをするので、初めて聞いた人は何を言っているのかわからないと思います。例えば、「みんなのみんなにみんなが入って、みんなのみんなが痛か」は、「右の耳に水が入って、右の耳が痛い」となります。わかりにくいかもしれませんが、アクセントを気にしないで助詞で区切ってリズムよく声にしてみよう。早口にすると、小気味よい言い回しであると感じたと思います。方言は音（響き）、リズムが面白く、コミュニケーションも楽しくなります。五島弁がどんな感じか知りたい人は、アニメ『ばらかもん』を視聴してみてください。

ところで、皆さん、授業や研究の発表で、調べてまとめたけど上手く伝わらなかった、漢字や英単語を読み間違えて恥ずかしかった経験はありませんか？私も時々あります。調べるときには読む、まとめるときには書く作業が必要となります。読む方法には音読と黙読があり、それぞれ長所、短所があります。静かに本を読むという黙読は声に出すという作業がないので、多くの情報量を得る、理解を深めるのに適しており、学習面から考えると音読より効率的かもしれません。一方で、音読は、声に出すことによって言葉の音（響き）やリズムを体感し、相手と共有する、相手に伝えるための学習に有効です。

大学院の博士課程で初めて英語論文を書いたとき

のことを思い出します。データをまとめ、研究指導していただいた先生から最初に英語で方法と結果を書くように言われ、英単語が適切な意味であるか、文法が正しいか考えて書き、提出しました。

指導教員「英語で書けるようですね。次はイントロダクションを書いてみてください。」

私「はい、わかりました。」

イントロダクションの各段落の初めと終わり、そして目的をどのように書くか…。書いてメールで送る、真っ赤になって帰ってくる。研究室に伺う、直接指導を受ける。何回か、繰り返しました。

指導教員「次は考察を書いてください。」

私「はい、わかりました。」

しばらく指導を受けていると、ふと気づいたことがあります。論文を読んでいるとき、指導教員は音読し、ここで何を述べたいのか、何を述べるべきなのか、簡潔な英文を声に出していました。言い回し、アクセント、単語と単語のつながり、韻を踏むというのかもしれませんが。その英文を聞くと、確かにわかりやすい。

私「そうか、音読して確認するといいのか。」

それから、一文、一段落終わると音読し、文章がリズムよく読めるか、スーッと入ってくるか、確認するようになりました。

大学院の論文指導をしています。院生には、提出前に必ず音読をする、できるだけ違う分野・領域の人に読んでもらう、この2点をお願いしています。相手が存在していることを意識する、わかりやすく簡潔にまとめることは非常に大切です。音読は小学校の授業のようで嫌かもしれませんが、皆さんの課題には読んでもらう、聴いてもらう相手が存在しま

す。大学には演習室があります。図書館にはラーニングコモンズがあります。書いたら音読してみましよう。皆さんは、得た知識や技術、研究の成果を

伝え、広げていく役割を担っています。書いたら音読する習慣を身につけ、言葉を声にして音（響き）とリズムを感じ、楽しく学んでいきましょう。



他者の世界を知ること

看護学部看護学科 教授 酒井 昌子

寄稿の依頼を受けて、はたと困ってしまった。車通勤をしている私は、本屋に寄ってパラパラと本を見開いては、なんとなく惹きつけられた本を購入するという本との偶然の出会いを楽しみ、わくわくしながら本を読むということがめっきりなくなってしまった。かといって、テレビを集中して見ることもなく、笑ったり、泣いたり感情が揺さぶられることも少なくなっていることに気づいたからだ。患者さんの健康や生活の質の向上を目指すことを教える立場の自分が、心の豊かさに鈍感になっている日常では実に情けないことだ。

私は、看護学生の頃、タイトルは忘れたが、新聞記者や医師のがんの闘病記やキュープラ＝ロス博士の『死ぬ瞬間』の死の過程など病や死に向かう人の体験を記述した本を読み大変感動した。看護についてまだよく知らず、そのまま看護師を目指していいものかどうかわからなかったけれど、その本を読んで看護師としての強い使命感をその時に感じたことを覚えている。それから、自分自身も病を経験して、それまでに多くの患者体験を記述した研究や理論を学んではいたものの、自分の体験や患者としての思いは、それらとはまた違う体験であり、改めて患者理解の難しさと病にある人の体験を知ることの面白さを知った。

先に書いたように、感情や思考を開放させる読書の機会が減ったものの、看護を教えている立場上、病や障害にある人々の理解を深めるために、また看護学生に伝えるためにも闘病記や体験記を時々読んでいる。『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（伊藤亜紗、光文社新書、2015.）は、目からうろこというぐらい大変面白かった。これは、視覚障害者がどんなふうに世界を認識しているかを障害者の語りから紹介している。「空間」、「感覚」、「運動」、「言葉」、「ユーモア」のテーマについて見えない人がどのように世界を「見て」いるのかを解明している。例えば、「空間」の章では、著者とインタビューをする障害者と大岡山駅の改札口で待ち合わせ、著者の大学の研究室に向かう途中、毎日通い慣れた坂道を障害者は「大岡山は山で今その斜面を降りているのですね」という言葉から、著者は見えない人の別の感覚、世界を知る。自分は駅と研究室をつなぐ道順の一部として空間的にも意味的にも坂道を部分として認識していたのに対して、見えない人は、俯瞰的に空間全体をとらえていた。見える人は月や富士山などの三次元を平面、二次元のものに捉えているが、見えない人は、俯瞰して空間を空間として捉えている。見える人は必ず見えない「死角」があり、見えるものしか見えていないのである。著者は見え

ない人は「視野を持たないゆえに視野がひろがる」と説明する。このように各章のエピソードから、驚きをもって見えないことは能力の欠如でなく、別の世界であることを知り得た。見えない人の認識のあり方や世界を知るとともに、見える私たちのものの見え方や見方、視点を問い直される本である。もう一冊は、41歳で脳梗塞を発症し高次脳機能障害が残ったルポライターの闘病記『脳が壊れた』（鈴木大介、新潮新書、2016.）も他者にわかりにくい脳障害の体験をルポライターとして克明に記述している。著者は病に倒れる前は、家出少女や貧困層の若者、詐欺集団など社会からこぼれ落ちた人々を主に取材対象としてきたことから、ジャーナリストとして持ち前の探求心で障害の身体を捉えつつも、人間

への温かさが感じられ、深刻な状況にも明るさのある闘病記である。この本からも病や身体障害の体験世界の理解を深めるとともに、病に倒れた人や家族のもつ強さ、たくましさを知ることができる。

これからも、看護に携わるものとして、本や様々な人との対話から病や障害のある人々など他者の世界の理解を深めるとともに、そこから自分のものの見かたを見直し、自己を知る機会を持ち続けたい。105歳で亡くなられた日野原重明先生の最後のご本『生きていくあなたへ』（幻冬舎、2017.）の中で「自分のことはいちばんわからないから、一生かけて発見していくのです」の言葉に勇気づけられ、自己の発見を楽しみ自分を高めていきたいと思う。

この一冊

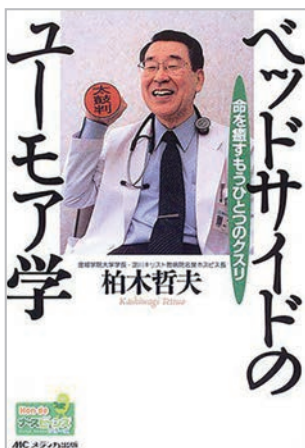


本学教員からのお勧めの一冊

（五十音順）

『ベッドサイドのユーモア学：命を癒すもうひとつのクスリ』

柏木哲夫著 メディカ出版



皆さんは終末期の患者さん、ご家族との関わりはとても難しいと思いませんか？（確かに簡単ではありません）

著者は淀川キリスト教病院にホスピスを開設し、多くの患者さんを看取ってこられた精神科医・ホスピス医です。

本書では、笑いやユーモアを活用した患者さんや医療者との「クスッ」となるやりとりが多数紹介されています。ユーモアは「人間らしさ」に不可欠なもので、いのちに輝きを与え、不安や緊張を緩和して癒しをもたらします。ターミナルケアに関心のある方にお勧めしたい一冊です。

看護学部看護学科 准教授 井上 菜穂美



『超訳 ニーチェの言葉』

フリードリヒ・ヴィルヘルム・ニーチェ著 白取春彦編訳
ディスカヴァー・トゥエンティワン



私自身のこの一冊は19世紀の後半に生きたドイツの哲学者であるニーチェの書籍です。書籍の中でニーチェは「脱皮しない蛇は破滅する。人間も全く同じであり、古い考えの皮をいつまでもかぶっていれば、成長することができないどころか、死んでしまう」と記しています。福祉に関わる人間として、新たな知識を得ようとする心や何事にも挑戦しようという前向きにさせてくれる言葉であり、私自身の心の支えとなる書籍の1つです。

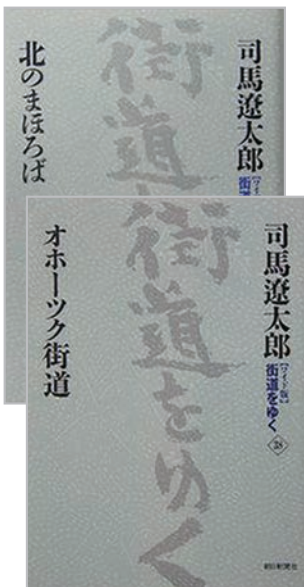


聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校 教員 植田 裕太郎



『街道をゆく』

司馬遼太郎著 朝日新聞社



「この一冊」には違反ですが、司馬遼太郎の『街道をゆく』という40冊を越えるシリーズです。街道と名がつくとおり、各地に行き、地元の人と歩き、その地の地理歴史を取材し考察したもの。「どこでもドア」から訪れたかのように、人々の暮らしと歴史が時間と空間を越えて見えてきました。私は長く住んでいる東北地方の描写を読み、「みちのく」の意味を知ったこと、作者が東北を「北のまほろば」と呼んだことにひきこまれました。別の街道では土器の発明は第二の胃袋と呼んだことでとりこになりました。



社会福祉学部介護福祉学科 教授 大川井 宏明

『生産性：マッキンゼーが組織と人材に求め続けるもの』

伊賀泰代著 ダイアモンド社



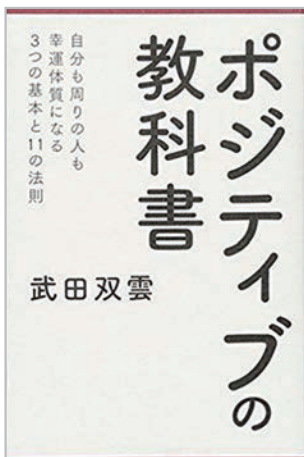
効率性と生産性の違いを説明できますか？私は本書を読むまではほぼ同義語と捉えていました。本書では生産性の1例として人材採用について挙げられており、本学の学生募集、就職支援、教育とも関連する点があり興味深く読み進めることができました。また、生産性を最大化する方法として既存の枠組みに捕らわれず革新と改善をしていくことの重要性が述べられています。生産性の視点から、業務、研究、さらにはライフスタイルについて新たなアイデアを提供してくれる一冊です。

リハビリテーション学部作業療法学科 助教 鈴木 達也



『ポジティブの教科書』

武田双雲著 主婦の友社



皆さん忙しい毎日をどのように過ごしていますか？忙しいと思ってばかりだと、ストレスを溜めてイライラしやすくなってしまうと思います。そうになるとやる気もなかなか上がらなかつたりすることでしょう。そんな方にお勧めしたいのがこの本です。書道家として有名な武田双雲さんですが、このような本をいくつも書いておられます。日常で起こる些細なことを前向きに捉える事ができるヒントを与えてくれますので、良かったら手に取ってみて下さい。

リハビリテーション学部理学療法学科 准教授 俵 祐一



『ふしぎだね!? 自閉症のおともだち（発達と障害を考える本）』

諏訪利明、安倍陽子編 ミネルヴァ書房



障害を持つ人を理解する際に、よく「相手の立場に立つて」と言われますが、それは簡単なことではありません。本書は、自閉症児が周りの大人や子どもにとって理解しづらい行動をとる時に、どうしてその行動をとるのか、どう関わればよいのかについて、イラストを使ってとても分かりやすく紹介されています。読みやすく「相手の立場に立つ」ヒントが多く詰まっています（本の例は子どもですが、大人にも通用する内容です）。このシリーズには他に、学習障害、ADHD、アスペルガー症候群、言語障害など10の障害についても発刊されているので、図書館でぜひ手に取って読んでみてください。



看護学部看護学科 教授 長峰 伸治



本学大学院生からのお勧めの一冊

『余命 10 年』

小坂流加著 文芸社



「生きているこの瞬間が、何よりかけがえがなくて。生のよろこびと同時に、死の恐怖を植えつけてしまった。死にたくない。」

著者の茉莉ちゃんは、本作の編集が終わった直後、病状が悪化。刊行を待つことなく昇天されました。三島在住の方です。20歳の時に余命10年と宣告されました。

私たちは、目の前のこの人に、一人の人として接することができているでしょうか。

医療職をめざす皆さんにぜひ、読んでいただきたい一冊です。

看護学研究科（博士前期課程）院生
2016-2017年度図書館サポーター

塚原 由美



文献を探してみよう！！

“みなさんは、文献（雑誌の論文等）をどのように探していますか？”

◆文献は、図書館ホームページ「調べる・探す」のデータベース等で検索ができます。



◆「調べる・探す」では、データベース、電子ジャーナル、新聞記事、辞典等を利用することができます。



◆データベースは図書や論文（文献）を検索する時、電子ジャーナルは論文を閲覧・ダウンロードする時に使います。

<主な電子ジャーナルの紹介>

★図書を閲覧（読む・ダウンロードする）

メディカルオンライン …… 本学で契約している医学及び関連分野の電子書籍の閲覧

★雑誌の文献を閲覧（読む・ダウンロードする）

【和雑誌】

メディカルオンライン …… 国内で発行される医学及び関連分野の論文の閲覧

【洋雑誌】

Journal Web …… 本学で契約している電子ジャーナルの閲覧

Ovid Nursing Full Text …… 看護関係の電子ジャーナルの閲覧



<主なデータベースの紹介>

★図書・雑誌を検索（探す）

蔵書検索OPAC …… **本学図書館**にある図書・雑誌・視聴覚資料の**検索**

★雑誌の文献を検索（探す）

【和雑誌】

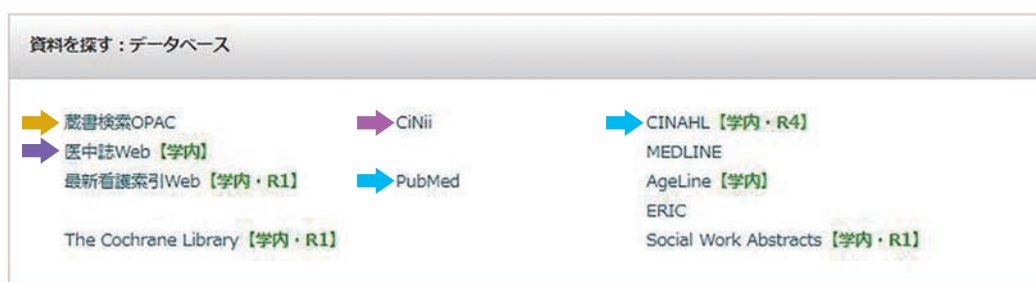
医中誌Web …… 国内で発行される医学及び関連分野の**論文の検索**

CiNii …… 国内で発行される全分野の**論文の検索**

【洋雑誌】

PubMed …… 医学領域の**論文の検索**

CINAHL …… 看護学および関連健康医学分野の**論文の検索**



データベース「医中誌Web」から論文（文献）を入手する方法

1. 「医中誌Web」は図書館ホームページ「調べる・探す」から入ります。キーワードや著者名、雑誌名を入れて検索をします。ヒット件数が多い時は、絞り込みやAND検索をしてみましょう。

- ① 「すべて検索（キーワードなど）」、「著者名」、「その他 ▼」から選択可能」を選ぶ
- ② 検索語を入力して **検索** する
- ③ 「絞り込み条件」を利用する時は、②を入力し「絞り込み条件」をチェックしてから **検索**
- ④ 検索結果（検索した履歴とヒット件数）が表示される ヒット件数が多いと思ったらAND検索を！
- ⑤ 検索履歴の ☐ にチェックをし **AND ▼** から**論理演算子※**を選び **履歴検索**

AND、OR、NOT 検索がある！

2. 検索結果が表示されたら、「所蔵確認」や「**蔵書検索OPAC**」で本学に該当雑誌の巻号があるかを確認します。リンクアイコンからフルテキストが見られる文献もあります。



- ⑥ 検索結果の書誌情報が表示される 一番下の検索結果に対して表示

- ⑦ 主なリンクアイコン

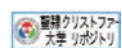


本学に該当雑誌がある表示

該当雑誌の巻号があるか確認！



メディカルオンラインに該当文献のフルテキストがある表示



本学リポジトリに該当文献がある表示

- ⑧  にチェックした検索結果の印刷等ができる 必要な検索結果を印刷！

3. 文献を入手できましたか？ 本学に該当雑誌がある場合は、複写をして文献を入手します。フルテキストが見られる場合は、プリントアウトして文献を入手します。本学に該当雑誌がない場合は、他大学図書館に文献の複写依頼をすることができますので、「**相互利用申込書**」に記入をして、カウンターにお持ちください。(学内者限定)
(図書館ホームページ「利用案内」→「文献複写・相互貸借」→「**相互利用申込書**」)

※ 論理演算子について

AND検索

AB両方を含む



OR検索

ABいずれかを含む



NOT検索

AのうちBを含まない



お知らせ

「**医中誌Web**」は、2018年度より ID・パスワードなしで、入れるようになりました。また、リモートアクセスができるようになり、実習先や自宅など学外からの利用もできます。
(学内者限定)

※ リモートアクセスの ID・パスワードはメールで連絡します。

「マイライブラリ」使っていますか？

図書館のホームページの「マイライブラリ」を皆さんは使っていますか？

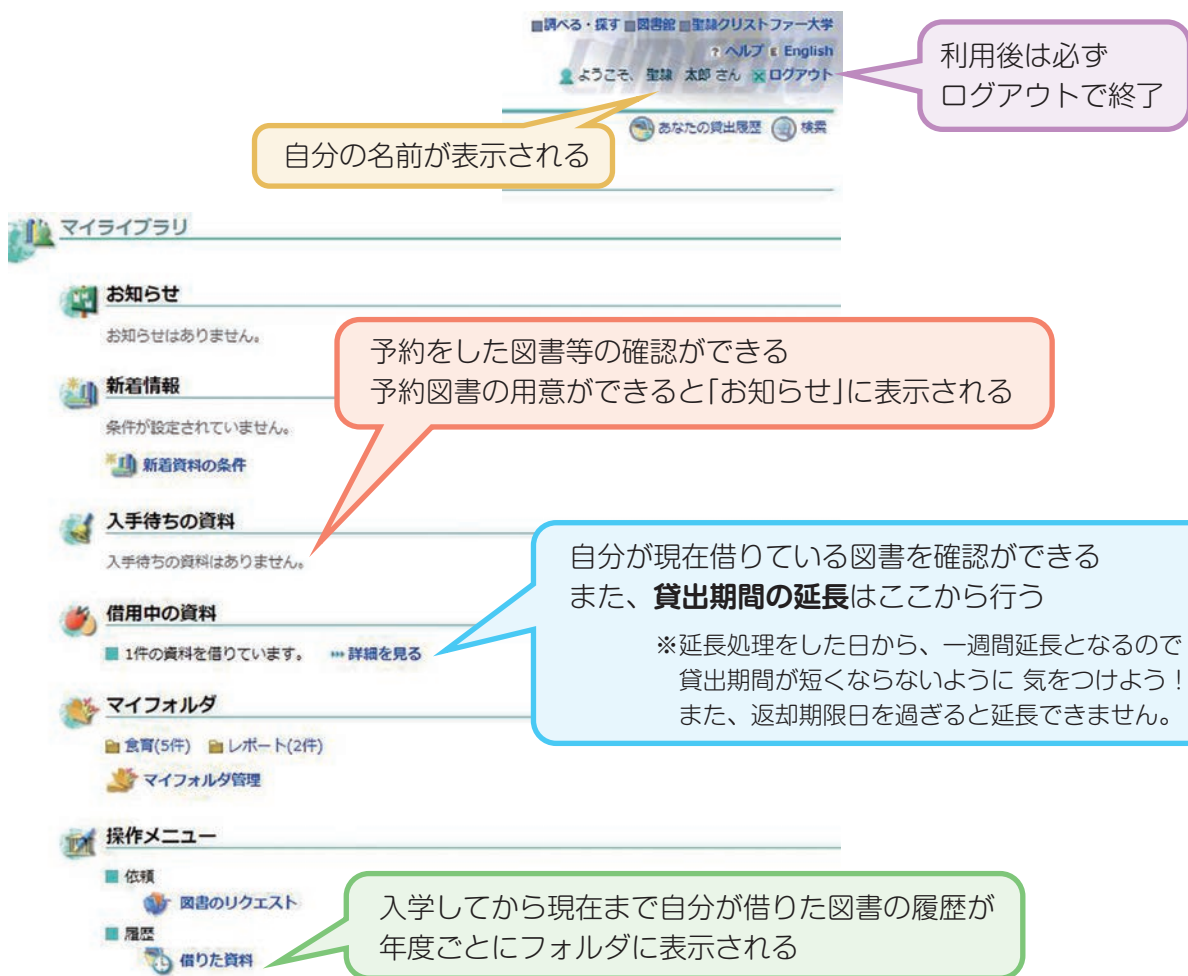
「マイライブラリ」は、**自分だけの図書館サイト**（学内者限定）です。便利な機能です。

是非使ってみてください。

※トップページ下にマニュアルがありますので参考に！



マイライブラリに入るユーザー名・パスワードは学生証のバーコード下の数字です。



図書館は公共の場です。マナーを守ってお互い気持ちよく利用しましょう。

図書館報 第16号 / 発行・聖隷クリストファー大学図書館 / 2018年4月1日
〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453 / TEL : 053-439-1416 / FAX : 053-414-1146
E-mail : cl-library@seirei.ac.jp 図書館ホームページURL : http://lib.seirei.ac.jp/library/